

金融経済概況

【全体感】

道北地域¹の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直しつつある。

すなわち、最終需要の動きをみると、個人消費は、低い水準となっているが、徐々に持ち直している。観光は、引き続き厳しい状況にあるが、徐々に持ち直している。公共投資は、高水準となっている。住宅投資は、低水準で推移している。労働需給は、弱めの動きがみられている。金融面では、預金、貸出とも前年より増加している。

【各論】

1. 需要項目別動向

個人消費については、低い水準となっているが、徐々に持ち直している。主要大型店は、衣料品が引き続き低調であるほか、日用品や食料品は一頃に比べ、増勢が鈍化している。家電販売は、持ち直しの動きがみられている。また、乗用車販売は、低い水準となっているが、徐々に持ち直している。

観光は、引き続き厳しい状況にあるが、徐々に持ち直している。旭川地区のホテル客室稼働率、ホテル・旅館宿泊客数、観光客の入込みとも、前年を下回っているが、徐々に持ち直している。

公共投資は、高水準となっている。公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額は、高水準となっている。

住宅投資は、低水準で推移している。新設住宅着工戸数をみると、持家は弱めの動きとなっている。貸家は振れを伴いながらも概ね横這い圏内の動きとなっている。分譲は高めの水準で推移している。

¹ 道北地域とは、上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内のことをいう。

2. 業種別動向

第一次産業では、生乳は出荷が増加している。オホーツク漁業（稚内、枝幸、網走、紋別）の水揚は、減少している。

第二次産業では、製材、紙・パルプとも減少している。

3. 雇用・倒産動向

労働需給は、弱めの動きがみられている。

有効求人倍率（常用<旭川、北見、稚内、網走>）は、弱めの動きとなっている。
新規求人数（同）は、減少している。

倒産件数は、落ち着いている。

4. 金融動向

預金残高は、前年より増加している。

貸出残高は、前年より増加している。

旭川市内金融機関の貸出約定平均金利（総合）は、前月より上昇した。

以 上

<本件に関するお問合せ先>

日本銀行旭川事務所 電話 0166-23-3181

ホームページ <https://www3.boj.or.jp/asahikawa/>